

## 平成 30 年度 第二回放射線治療部会 議事録

2018/10/24

参加者(順不同、敬称略)

足立加那、岸本昌正、吉田謙、井上正義、門前一、藤山たまき、土田マサヒロ、池田恢、北野崇夫、西田純一、小倉昌和、大磯清仁、田中正博、田中英一、石垣孝、堤真一、手島昭樹、田中あすか、河野一洋、今西美智、涌田哲成、河村正、寺島学、志賀淑子、辰巳智章、橋本一誠、永田憲司、森川啓司、橋本淳子、藪中健人、則久佳毅、池上正樹、中野素宏、高橋肇、出口和洋、竹中賢一、大谷侑輝、谷畑博彦、多間田寿士、石井佳江、田中寛人、福田晴行、藤田秀樹、浦田亜紀子、山本鋭二郎、板垣康、西多俊幸、横田雅人、廣川恵子、川守田龍、岡本欣晃、山田正宣、鮫島雅典、茶谷正史、宮崎正義、大平新吾、正岡祥

### 1. アンケート 報告と討論

- 足立(市立豊中)：セミナーを年一回開催している。止血目的 RT のガイドラインがないので他施設の状況を知りたい。
- 吉田(大阪医科大)：三島医療圏唯一の RALS 所持施設だが、費用対効果が薄く継続すべきか隣接する医療圏に任せてもよいか議論してほしい。
- 土田(近大)：年一回、がん放射線治療研修会を実施している。臨床現場での問題は特にない。
- 池田(堺市立)：年に一度、大阪労災病院と共催で看護師を対象として放射線がん治療セミナーを開催している。また、市民健康講座や登録医総会を行っている。現場での問題点として、いくつかの施設を対象にアンケート調査を行った結果、技師の運用に問題があることが分かった。
- 小倉(市立岸和田)：年に一回放射線療法に関する講演会を開催している。現場の問題として、IMRT を開始して業務量が増加するも、スタッフが増えないうに技師は診断業務を優先され、放射線治療の教育がしづらい。
- また、本会で作成した放射線治療施設の状況を定期的に update する仕組みを構築してほしい。
- 手島：ホームページに公開する形で良いか。
- 小倉：望ましい形であればよい。
- 手島：事務局として検討していく。

- 田中(大阪医療)：オンコロジーセミナーを年四回実施している。現場の問題として大阪市内はリニアックが多く、患者の偏りが生じており、放射線治療施設の集約化を議論していく必要がある。
- また、本部会の目的を明確化してほしい。
- 石垣(大阪赤十字)：患者の会向けに疑問に答えている。技師は専従なので現場の問題はない。
- 堤(大阪市大)：毎月、市民医学講座を開催している。患者を紹介するために、各治療施設でどのような治療を行っているかを知りたい。
- 手島：整備しているホームページで公開できるようにしたい。
- 手島(大阪がん)：年一回、関西高精度放射線治療研究会を実施している。また、この放射線治療部会も行っている。この放射線治療部会も、幹事の持ち回りや土曜日開催の検討も行っている。
- 河野(済生会吹田)：定期的な講演会等も行っている。現場の問題として、放射線治療医が2名確保できないためIMRTの算定ができない。また、患者の受け入れ態勢をどうしていくか教えてほしい。
- 涌田(高槻赤十字)：近隣の診療所等に当院の取り組みを紹介している。三島医療県内で合同の市民公開セミナーを実施している。臨床現場は余裕があり、認知症患者等の紹介も積極的に受け入れている。
- 河村(佐藤病院)：二か月に一回、患者向け及び家族に放射線治療のセミナーと見学会を行っている。議題として、大学病院と市中病院の役割分担を考えた方が良い。
- 志賀(関西医大)：学術講演会を年7回行っている。
- 辰巳(市立ひらかた)：市民公開講座を年2~4回実施している。議題として、大学病院等のプロトコルを作成の上、連携施設と共有していけないか。
- 橋本(若草第一)：月一回オープンカンファレンスを行っている。臨床現場のキャパシティに余裕があるので、東大阪の患者を紹介してもらえるシステムを構築してほしい。

- 永田(石切)：市民講座を年二回行っている。横のつながりが弱く、勉強会等の開催が少なかったり、患者の紹介等がスムーズではないと考えている。
- 池上(ベルランド)：地域医療機関向けに放射線治療の紹介を行っている。
- 竹中(府中)：市民講座やがんサロンを実施している。
- 大谷(市立貝塚)：常勤医が不在のため、放射線治療に関する市民公開講座は実施していない。現場の問題として、大阪府下でも一日当たりの照射患者数が10人に満たない施設があり、放射線治療施設の戦略的配置を考える必要がある。
- また、会としての結果や成果を公開する必要があると考える。
- 谷畑(岸和田徳洲会)：月一回市民向けの講座を実施している。
- 福田(済生会中津)：開業医向けと市民向けの講座を行っている。
- 山本(済生会野江)：緩和照射を主に行っているなので、紹介を行ってほしい。
- 板垣(関電)：二か月に一度カンファを行っている。
- 西多(JCHO 大阪)：定期的に医師向けに講演会を行っているが、放射線治療特化したものはない。
- 横田(住友)：他の科と共同で市民向けの講座を開催している。
- 楠本(廣田)：年に二回患者サロンを実施している。当院は就労支援として朝8時から行なっているので、患者を紹介してほしい。
- 岡本(大阪警察)：放射線治療の内容の時に講座への協力をしている。議題として、IMRTの適応拡大に伴う保険診療について知りたい。本会の開催時間を夕方にしてほしい。
- 橋本(市立柏原)：放射線治療を行っていないため、そのあたりの内容を市民に還元できていない。放射線治療を行っていないので、実施施設一覧があると紹介しやすい。

- 藪中(PL)：がんサロンにて放射線治療の相談屋紹介を行なっている。
- 出口(耳原)：放射線治療装置がないので、がん関連の学習会のみとなっている。
- 田中(千船)：放射線治療以外で、二ヶ月に一回市民向けの講座、年に一回地域医療機関との連携協議会を実施している。
- 鮫島(刀根山)：放射線治療医による患者向けの講演を行なっている。当院は常勤の放射線治療医がないため、そういう施設に対する助言がほしい。

## 2. 国の第3次がん対策推進基本計画の放射線治療関連の review (市立貝塚病院 大谷) 討論

- 田中(大阪府健康づくり課)：まだ国指定の検討段階のため、府指定に関しては検討していない。府拠点の整備指針に関しては本会を通じて議論を始めるができれば良いと考えている。
- 手島：このような議論に現場の専門家が参加できていないのが現状だ。そのため、この会のように専門家がいる場で議論に参加できればと考えている。
- 池田(堺市立)：国指定の指針は診療放射線技師における品質管理担当者の事項が曖昧になっている。
- 手島：現在の流れとしては、専門職を配置するような指針になるのではないか。
- 大谷：以前からもこの事項は曖昧になっている。以前石倉班が調査結果を厚生労働省に提出しているが、縛りを強くしないよう検討したため結果として骨抜きになってしまったのではないか。

## 3. がん対策センターHP 放射線治療情報の改訂最終案 (大阪国際がんセンター 正岡) 市民向けのホームページ改定を行い見やすくなった。事務手続き等の承認が終われば公開できる予定。

今回は市民向けのための改定で、本日意見で挙げた情報公開は医療者向けの部分になるので、これから意見を集約し検討を行っていく。

## 4. 特別公演 大阪重粒子センターにおける適応症例 (大阪重粒子センター 茶谷) 討論

- 中野(ベルランド):大阪国際がんセンターと重粒子センターで患者番号は共通だが、電子カルテはつながっているのか。
- 茶谷:番号は共通で、診察券も共通カードとなっている。電子カルテの接続は、準備を行なっているが、予算の関係もありまだ実現できていない。
- 手島:キャンサーボードはどうしているか。
- 茶谷:基本的にはワーキングの先生の了解を取って、インターネットを通じて行なっている。前立腺に関しては症例数が多く負担が大きいので、また別の先生に画像や経過を送っている。前立腺は5月まで120人が待機している。二つ目の治療室は前倒しして12月に稼働予定にしている。二つ目の部屋は斜めからのポートがあり、治療の幅も増え、負担も減る。
- 足立(市立豊中):同一肺に二つ腫瘍がある場合など、二部位も可能か。
- 茶谷:二部位も問題はない。
- 手島:地域性はあるか。
- 茶谷:近畿圏や徳島なども多い。ただ、紹介患者の多くが適応外で、患者にX線照射の説明もしている。当院はスキャンニング法で、従来照射に比べて照射野変更の柔軟性がある。
- 手島:X線と重粒子線の混合は可能か。
- 茶谷:ヨーロッパは併用を行なっており、可能性はある。

## 5. 全体討論

- 則久(ベルランド):他施設で台風時の対応をどうしたか。あるいはどうするべきか助言がほしい。
- 手島:スタッフは出勤可能な者で業務を行なった。明確な方針はない。
- 則久:当院は、時間を早めて行なったが、患者さんからも帰宅困難の意見があったので、今後を考えるべきか。
- 手島:患者には無理な来院を避けてもらうよう周知している。
- 池田(堺市立):当院は、前日に病院長に放射線治療中止の旨を伝えて、早めに患者さんに周知を行なった。当日は停電もあり、大変だったので厳しく判断していくべきか。
- 永田(石切):来年のゴールデンウィーク10連休について、いつ照射を行うか。
- 池田:二つ案を考えている。4/30、5/2、5/3の三日行うか、病院の方針に従うかで検討をしている。

文責 正岡 祥、手島 昭樹